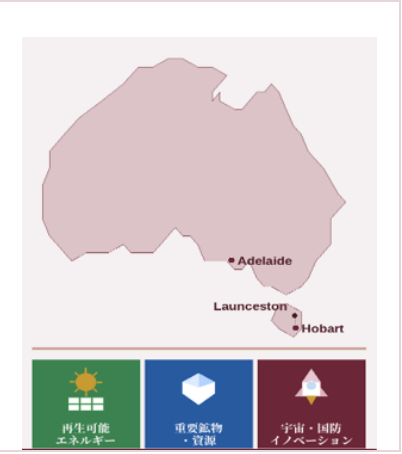
2026 年度　JCCI 海外視察

オーストラリア（タスマニア・アデレード）

2026 年 10 月 2 日（金）～8 日（木）

視察報告書

～再生可能エネルギー・重要鉱物・宇宙イノベーションの現場を歩く～



主な視察先・活動内容

1　JETRO シドニー事務所によるブリーフィング　タスマニア

JETRO シドニー事務所長の渡邉氏より、豪州の人口動態・経済政策・エネルギー・産業構造についてブリーフィングを受けた。居住者の約 3 割が海外出身で人口は増加が続く一方、住宅供給不足や生活コスト上昇が大きな課題となっている。エネルギーでは州ごとに電源構成が異なり、水素戦略は輸出主導から国内消費重視へ転換しつつある。データセンターの電力需要や重要鉱物のサプライチェーン構築など、日系企業にも関わる論点についても詳しく説明いただき、理解が深まった。

2　タスマニア州政府によるブリーフィング　タスマニア

州政府の Trade、Mineral Resources、Renewables, Climate and Future Industries の各部門より Cameron Shield 氏、David Bennett 氏、Nic Waldron 氏、Declan Cutler 氏にお越しいただき、タスマニア州の概要や貿易・投資環境、将来性、日本との関係等について説明を受けた。人口は約 58 万人、土地の半分が国立公園または保護区で、再生可能電力 100%で稼働している。日本は 30 年以上にわたり重要な輸出市場であり、2021 年より東京に貿易・投資促進担当官として Joe Gayton 氏が配置されている。鉱物資源、水資源、自然災害リスクの低さなどを強みに、鉱物・再エネ・クリーン燃料分野への投資誘致を進めている状況についての説明や、日本企業への期待もお話いただいた。

3　Hydro Tasmania によるブリーフィング　タスマニア

州政府所有の公営企業 Hydro Tasmania の Director、Dale Bryce 氏ならびに Tammy Chu 氏より、事業概要と今後の方向性についてブリーフィングを受けた。同社は創業 110 年、30 の発電所を運営する豪州最大のクリーン・再生可能エネルギー発電事業者である。海底連系線 Basslink（約 500MW）で本土ビクトリア州と接続し、市場価格に応じて電力を輸出入することで水の価値を収益化している。他にも豪州・インド太平洋にて水力・太陽光・風力・蓄電の案件に取り組んでいることや、太平洋島諸国ではディーゼル依存の低減を目的とし、太陽光・蓄電池事業を支援している等の説明を受けた。

4 水力発電所（Trevallyn Power Station）・ダム(Trevallyn Dam)視察

タスマニア

Steph McGovern 氏ならびに Craig Kershaw 氏にご案内いただき、1956 年から運転を続ける Trevallyn 発電所を視察した。Trevallyn Dam から約 3.2km のトンネルで送水し、4 基の発電ユニットで年間約 450GWh を発電する流れ込み式（自流式）の発電所である。1990 年代初頭に無人化され、現在は中央制御センターから遠隔で監視・操作されている。夕方の需要ピークに向けて運転価値が高まることや、水力発電機が再エネ拡大時に系統慣性を提供できることについても説明を受けた。その後 Trevallyn Dam に移動し、実際のダムと、ダム近辺が公園として整備され、地元住民に広く開放されている様子を視察した。

5 ABx Group による Deep Lead プロジェクト・レアアース探査現場 視察

タスマニア

Mark Cooksey 博士と Nathan Townsuji 氏の案内のもと、資源会社 ABx Group が採掘中のイオン吸着型クレイ型レアアース鉱床を視察した。鉱床は浅く、粘土層は通常 5〜10m、平均深度は約 5〜7m で、サイト全体では約 1,500 本のボーリング孔が掘られている。掘削にはリバースエアドリリングを用い、1m 間隔で試料を採取して、分析は他社に委託される。環境面に配慮し、既存の林道沿いで低インパクトの掘削を行い、水や物質の注入は行われていない。事業計画は、粘土から混合レアアース炭酸塩を生産し、マレーシア、米国、日本などの外部精錬所へ出荷するもので、製品の約 30%はイットリウムである。同社は重希土類の比率の高さを強みとみており、約 1 年半〜2 年後に小規模な生産の実現を目指している。本格的な事業化の鍵は、処理コストの最小化、最適な立地と工程を特定するための技術、環境面を含む許認可の進展、下流工程における協業先の確保等にあると説明があった。

6 アデレード日本商工会議所との交流会

アデレード

2022 年 5 月に設立されたアデレード日本商工会議所は、南オーストラリアの日系企業・日本人事業者である法人と個人からなり、会員数は法人 8 社・個人 24 人。会員間の情報交換、現地の日本人コミュニティの環境づくり、日豪の友好と経済への貢献を活動目的としている。

同交流会には、同商工会議所の上更谷会頭(Osmoflo)、東田副会頭(YT LEGAL)、ボウイ理事(Super Guardian)、立脇理事(Rits Conveyancing)の 4 名、ならびに南オーストラリア州政府 Invest SA の Executive Director である Chris Wood 氏を招聘し、豪州料理を味わいつつ、意見交換を行った。日系企業の進出状況やビジネス環境、豪州の他都市との比較・課題等、トピックは多岐に渡り、和やかな雰囲気の下、翌日より始まるアデレード視察に先立って現地への理解を深めた。

7 イノベーション地区 Lot Fourteen によるブリーフィング

アデレード

南オーストラリア州政府が 2018 年に旧 Royal Adelaide Hospital 跡地（約 7ha）に設立したイノベーション地区 Lot Fourteen について、Business Development Manager の Denise Loftus 氏よりブリーフィングを受けた。防衛・宇宙・重要技術（AI・量子・サイバー）分野の 160 社以上が入居し、現在約 1,500〜1,800 人が勤務、完成時には 6,000 人超の就業を見込む。州政府が 2 億豪ドル規模を投資した Defence Headquarters ビルの建設も始まっており、BAE Systems Australia が 500 人超の従業員を移す計画である。人材育成では、防衛・デュアルユース技術に重点を置く Australian Defence Technologies Academy の費用を州政府と連邦政府が半分ずつ負担し、2034 年までに州経済へ 20 億豪ドル超の効果をもたらすと推計している。

8 Australian Institute for Machine Learning（Adelaide University）視察

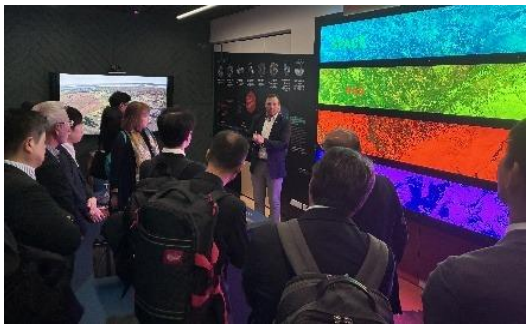
アデレード

同じく Lot Fourteen 内にある Adelaide University の機械学習研究所（AIML）を訪問し、BD Manager の Matt Cliff 氏ならびに AIML AI Space Team の Sofia McLeod 氏より説明を受けた。当研究所は約 200 名のメンバーを擁し、外部資金は約 1 億 5,000 万豪ドル、約 75 社の中小企業と連携している。Commonwealth Bank of Australia が 5 年間で 600 万豪ドルを拠出して基礎 AI 研究を支援する事例や、中小企業向けの Industrial AI Program、CSIRO・州政府との責任ある AI 研究など、研究成果の産業実装に向けた取り組みについて伺った。

9 Australian Space Agency 視察

アデレード

同じく Lot Fourteen 内にあるオーストラリア宇宙庁の展示施設を視察し、Business Development Manager の Tom Radomski 氏に案内いただいた。日本の探査機はやぶさ 2 が持ち帰った小惑星リュウグウの試料回収プロジェクトをはじめとする、JAXA・豪宇宙庁・豪国防軍の協力関係についても説明があった。また南オーストラリアは人口が過密でなく、航空交通量が少なく、空が澄んでいるため、帰還試験やロケット試験・評価に適していることが紹介された。一方で過去 12 か月の打ち上げ回数は 331 回に達し、軌道上の宇宙ごみ対策が課題である。



10 Australian Space Agency によるブリーフィング

アデレード

South Australian Space Industry Centre の Executive Manager である Steve Campbell 氏より、豪州宇宙産業の戦略と日本との協力に関する概要について、ブリーフィングを受けた。宇宙庁は 2018 年に設立され、民間宇宙活動の調整、国際連携、信頼される宇宙産業の育成等を担っている。2026 年 7 月には「宇宙に関する声明」が公表された、信頼性の高い宇宙サービス、宇宙輸送、衛星プラットフォーム、宇宙空間での製造、探査技術の 5 つが重点分野として示された。また今年は日豪友好協力条約（NARA 条約）の 50 周年にあたり、これを機に、更なる両国の宇宙産業の責任ある成長と協力関係を望むとの話があった。

11 政府関係者ならびにスタートアップ企業との交流会

アデレード

Lot Fourteen 内で活動するスタートアップ企業のための交流施設である Stone & Chalk 内にて、南オーストラリア州政府関係者、Australian Space Agency や South Australian Space Industry Centre の宇宙産業関係者、10 社のスタートアップ企業関係者等と、立食形式で昼食を取りながら活発な交流を行い、懇親を深めた。

12 日系企業 Osmoflo 視察

アデレード

Executive Director Technologies を務める上更谷氏より、同社の事業概要について説明を受けた。Osmoflo は 1991 年創業、アデレードに本社を構える海水淡水化・水再利用企業であり、カナデビア（旧・日立造船）が 100%出資している。海水淡水化、再生水、緊急給水、運転・保守を主力に、世界で 600 件超のプロジェクトを納入している。鉱業、石油・ガス、電力、自治体を主な顧客とし、従業員は約 340 名、受注残高は約 1 億 6,000 万豪ドルである。買収では自治体向けの上下水処理企業 Geo/O'Connor の取得が完了し、統合後は下水処理能力や施工能力の強化を期待している。現在最大の案件は、Rio Tinto 向け Dampier の 24 MLD 海水淡水化プラントで、第 2 段階の製造はほぼ完了し、予定より進んでいる。ニューカッスル地域の Belmont プロジェクト（1 日 30 MLD）では処理プロセス設備を供給し、試運転は現場据付工事の完了に左右される。研究開発では、膜面積を約 25%増やせる 3D プリント製膜スペーサー技術に出資し、現在は同技術の世界最大の販売者になったという。一方、オーストラリアの人件費の高さから、海外での製作・調達が検討課題である。

13 Flinders University・スタートアップ企業(UING 社 & XX 社)視察

アデレード

2008 年に閉鎖した三菱自動車の工場跡地を再利用し、2012 年より開発が始まった研究機関・大学・企業・スタートアップが連携するイノベーション地区 Tonsley Innovation District の視察を行った。同地区の重点分野はイノベーション、最先端の製造技術、サステナビリティ、次世代エネルギー。Flinders University と公立の職業訓練専門学校 TAFE を通じ、年間 8,000 以上の学生が同地区で学んでいる。最初に訪問した Flinders University 発のスタートアップ支援機関 Flinders New Venture Institute では、同機関のチームリーダーJulia Miller 氏より説明を受けた。同機関の支援するスタートアップ企業の例として、 UING 社が提供するウェブカメラのみでハンドジェスチャー操作を可能にするインタラクティブ技術 VeraPacs や、女性の健康管理に取り組み XX 社が特殊なカップを使って月経血の流れを採取し、色や粘度などの特性を評価するシステムの開発など、それぞれの現状と今後の展開について話があり、日本・シンガポールの組織との協業を求めていることも伺った。

14 Factory of the Future 視察

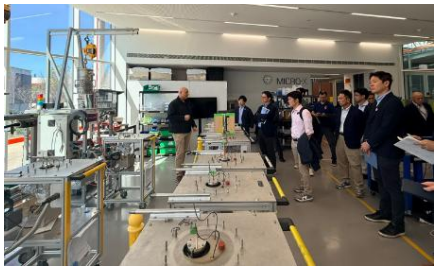
アデレード

続いて、Flinders University が運営する先進製造技術の研究・実証拠点、Factory of the Future を視察した。同拠点は企業が新しい製造技術を試し、研究者と協力して実際の製品や生産工程に応用するための場所であり、産業界の課題を研究成果につなげ、オーストラリアの製造業の競争力を高めることを目的とする。同大教授 Rocco Zito 氏による概要説明の後、実際に研究中の技術についてデモストレーションを拝見した。

15 Micro-X 視察

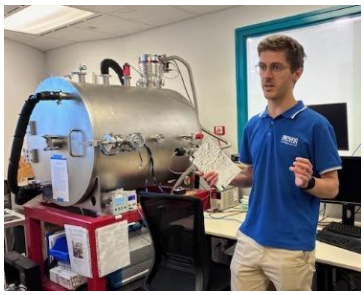
アデレード

同地区内に入居するスタートアップ企業 Micro-X は、携帯型 X 線・CT 画像装置を開発・製造しており、医療とセキュリティの 2 分野を中心に、従来より小型・軽量な X 線装置の実用化を進めている。具体的な製品としては、移動式 X 線システム、救急車への設置を想定した CT 装置、手荷物検査システム等が挙げられる。COO の Anthony Skeats 氏に実際の製造現場を案内いただき、従来の熱陰極に代わって、カーボンナノチューブを用いた冷陰極の X 線管を製造していること、従来型より小型・低温でデジタル制御が可能であると伺った。クリーンルームでの組立や真空焼き出しなど、X 線管の製造工程や高電圧システムについても説明を受けた。



16 Inovor Technologies 視察

アデレード



Inovor Technologies 社の視察では、宇宙機の設計・製造施設を見せていただいた。Lot Fourteen 内に構える約 1,000 ㎡の施設には 100 ㎡のクリーンルームや熱真空チャンバーなどを備え、スタートラッカーや姿勢制御装置、フライトコンピューターなどを社内で製造・試験している。CubeSat 級から 70〜75kg 級の宇宙機へ展開しており、年間製造能力は約 20 機。日本企業と共同開発中の海洋状況把握衛星 Marsat One や、宇宙領域把握ミッション Hyperion などの取り組みについても紹介を受けた。

視察団名簿 DELEGATION MEMBERS

No.	役職	氏名	所属
1	会頭	柿原 大輔	Sumitomo Corporation Asia & Oceania
2	副会頭	橋本 和俊	TOSHIBA Asia Pacific Pte Ltd
3	副会頭	杉島 淳	Panasonic Asia Pacific Pte Ltd
4	副会頭	高柳 直明	All Nippon Airways Co Ltd
5	運営担当理事	清水 美保	Mitsubishi Chemical Singapore Pte. Ltd.
6	運営担当理事	伊藤 利充	Mitsubishi Electric Asia Pte Ltd
7	運営担当理事	廣瀬 貴晴	Toray International Singapore Pte Ltd
8	理事	西田 知之	Mitsubishi Corporation, Singapore Branch
9	理事	梅村 充	Mitsui Fudosan (Asia) Pte Ltd
10	理事	大山 雅弘	MUFG Bank, Ltd
11	理事	高倉 圭介	Tokio Marine Insurance Singapore Ltd.
12	参与	黒川 淳二	JETRO Singapore
13	参与	小澤 俊一郎	Embassy of Japan in Singapore
14	会員	中島 祥友	NYK Group South Asia Pte. Ltd.
15	会員	増井 祐介	Nagase Singapore (Pte) Ltd
16	会員	杉原 隆	Gaudi Japan Corp.
17	現地参加	渡邉 尚之	JETRO Sydney
18	事務局	梁 瑜	JCCI
19	事務局	後藤 志帆	JCCI

参加者からの主なご感想 VOICES FROM PARTICIPANTS

VOICE 01

単独では視察できない先に行く事ができて、実りの多い視察だった。レアアース、再エネ、宇宙どれもテーマはドンピシャ。視察団メンバーの方と懇親を図る事ができて、こちらも有難かった。来年以降も参加積極的に検討したい。

VOICE 02

海外視察の大きな価値は、現地で実際に見て、話を聞き、その地域の変化や勢いを直接感じられる点にあると改めて感じた。タスマニア、南オーストラリアは自然環境を活かした政府の方針が明確で、日本やシンガポールの方針との類似点、相違点を感じられる貴重な機会であった。自社の業界だけでなく、エネルギー、インフラ、テクノロジーなど幅広い分野を見ることで、海運・物流との新たな接点について考える良い機会となった。他業種からの参加者との交流も含めて視野を広げる貴重な機会であり、今後の自社の地域戦略にも活かしていきたい。

VOICE 03

今回の視察では、レアアース開発現場や産学官連携によるイノベーション拠点など、個社ではなかなか得難い貴重な訪問機会をいただきました。また、参加企業の皆様と移動や視察を共にする中で、それぞれの視点や知見を共有できたことも大きな収穫でした。物事を異なる角度から見ることで、新たな気づきや発想を得ることができ、大変有意義なミッションとなりました。事務局の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

VOICE 04

参加者の業種が多岐に渡っていたため、それぞれの視点が異なっていることが逆に参加者同士の刺激になってとても有益であった。また各視察先において、シンガポール JCCI と日本への期待の高さが随所に感じられたのも大きな収穫であった。毎日の懇親の場においても、それぞれの参加者の非常に元気な姿を拝見し、日本企業の底力はまだまだこんなものではないと確信した。いろんな意味で自分の組織では再現不可能な、唯一無二の有意義な視察出張であったと思料。素晴らしい機会を提供してくださった事務局の皆様に心から感謝申し上げます。

VOICE 05

エネルギーや注力ビジネスなど、オーストラリアの州別の特色が肌で感じられ、日頃の業務範囲を超えた新たな知見を獲得できて非常に有意義だった。JCCI メンバーとの交流が一層深まり、また現地州政府の方など新たなコネクションもできて良かった。オーストラリアの特徴、課題（地域別の電源構成・特徴、住宅不足・高いリビングコスト、連邦制で州が比較的独立、等々）を良く理解することができた。宇宙ビジネス等のスタートアップや、産学連携のイノベーションハブ等先端の取り組みを学ぶことができた。業界の異なる JCCI メンバーの皆様と共に視察することで、専門的な話を分かりやすく教えていただくこともでき、より理解を深められた。

VOICE 06

今回の視察では、再生可能エネルギー、重要鉱物、AI・宇宙関連など、多岐にわたる分野の取り組みに触れる貴重な機会を得ました。必ずしも当社の事業に直接結びつく分野に限らないものの、幅広い視点で捉えることで、さまざまな接点や将来的な連携の可能性を感じることができ、大変有意義な視察となりました。 また、現地で事業を展開する日本企業との交流を通じて相互理解を深め、業種や事業領域を越えたネットワークを築き、今後の良好な関係構築につなげていくことの重要性を改めて認識しました。今回得られた知見や人的ネットワークを、今後の事業活動や新たな連携機会につなげていきたいと考えます。

VOICE 07

タスマニアは豊かな自然環境とクリーンなイメージを有しており、自然災害リスクが低く、水力発電を中心とした再生可能エネルギーを活用した持続可能な産業が発展する大きなポテンシャルを有していることを改めて認識しました。また、豪州およびSA州政府による積極的な産業支援政策のもと、宇宙・防衛分野では日本との連携が着実に進展しており、日系企業が先端技術の研究開発や事業展開を行いやすい良好な事業環境が整備されていることを実感しました。

VOICE 08

会頭、事務局のご準備、ご配慮が本当に素晴らしかったです。年々レベルが上がっておりますね。訪問先もレストランも全て人生の宝物になります。有難うございました。

VOICE 09

各社経営層の皆様と共通のテーマで意見交換することで、その業界が、その地域や産業、技術、将来性をどのように捉えているか、大変勉強になりました。シンガポールは市場が小さく、海外の需要を取りに行く必要がありますが、タスマニア（人口 58 万人）、アデレード（人口 150 万人）ともに、再生可能エネルギー、鉱物資源、宇宙・防衛・医療といった自州の強みのある分野で、外の需要も獲得しようと州政府との連携も密に取り組みを展開されている点、印象的でした。また、アデレードの産学連携（Lot Fourteen、Tonsley Innovation District）による国際的な競争力強化は、三菱自動車撤退で失われた雇用の回復といった側面もあったかと思います。健全な危機感から醸成された仕組みであり、自社の組織作り（含む官民連携）において、参考にさせて頂きたいと思います。

VOICE 11

訪問先やホテルでの座学、現場視察で得た貴重な知識や経験、参加された皆さんと共に過ごさせて頂いた時間は、まさに Priceless！感謝の二文字です。ほんとうに有難うございました。

VOICE 13

訪問先の選定からお食事の手配に至るまで、細部にわたり行き届いたアレンジをしていただき、本当に素晴らしかったです。今回は様々な業種から参加者が集まりましたが、皆さんそれぞれが個人として、また会社としても、多くの学びと貴重な経験を持ち帰ることができたのではないかと思います。また、参加メンバー同士のより緊密な関係構築にも大きく貢献いただいたと感じています。視察期間中は、最初から最後まで参加者への細やかなご配慮をいただき、大変だったことと思います。本当にありがとうございました。

VOICE 15

皆様の豪州をご覧になる視点を知ることにより、日豪関係で何をどのように取り上げていくべきか、新たなヒントを得ることができました。今回は 3 年前のメルボルンに続いて 2 回目の同行でしたが、とてもフレンドリーな面々の皆様で、初日から勝手ながら打ち解けさせていただきました。
今後、日星豪で個別の連携事例をサポートさせていただければと思っております。また、今回のような視察を経て、シンガポールを軸にしながら日豪関係の深化に努めていければと思っておりますので、またの企画がありましたら是非お声がけください。

VOICE 10

オーストラリアの中でタスマニア州、南オーストラリア州は、豪州の東側(石炭)、西側(ガス)と違い、大きな資源が無い中で、水を含めた再エネ資源、レアアース開発、防衛・宇宙産業の育成、Lot14 の様な産官学連携拠点を通したスタートアップ支援、といった分野で存在感を発揮している点が理解でき、今後の豪州事業展開を考える上で大変参考となる視察であった。

タスマニア州では、豊富な水資源をベースとした再生可能エネルギーの重要州であり、大陸側との電力系統連携により再エネの観点から大陸側を支えている州である事が理解できた。またレアアース開発も進められ、グローバルでの期待も高いが、開発に当たっては「圧倒的シェアを持つ中国次第」という開発リスクも踏まえ比較的小規模資金投入での開発を行っている状況も聞く事が出来た。

南オーストラリア州／アデレードのオーストラリアの中での位置づけ、宇宙省を置き、防衛・宇宙産業への取組を重点としており、小型衛星のみならず、医療機器等の関連スタートアップが実際に事業化を進めている点を確認する事が出来大変有意義であった。また、訪問した企業 OSMOFLO(水処理システム供給：Kanadevia 傘下)では、海水淡水化システム事業等もあるが、鉱物精錬の際に生じる水の浄化が主な事業になっている点をお聞きし、そういった地域の特徴を踏まえた顧客課題解決による事業での貢献、といった視点も得る事が出来、参考になった。

その他の文化的施設の視察を含め、全体を通し、多くの政府機関、企業、関係先を訪問する事が出来、事業面で大変参考になる視察会であった。

VOICE 12

タスマニアでは豊かな自然が生み出す水と再生可能エネルギー、アデレードでは AI・宇宙を核としたイノベーションの貴重なビジネスでの学びを得る機会となりました。

VOICE 14

訪問先の企業、親日的な現地の方々への貴重な交流をアレンジいただき心より感謝申し上げます。 世界一の空気や満天の星空に輝くサザンクロス、州政府所有の Trevallyn 発電所、豪最古の家族経営 Yalumba ワイナリー、そして参加メンバーの方々との今回の視察、、、
生涯忘れることはないでしょう。ありがとうございました。